

シリーズ

ひらつかの年中行事 ⑦

歳の市

年の瀬も迫ると市内の各地に正月用品を売る市が立ちます。これを歳の市(としのいち)といいます。メ飾りやこれに付けるダイダイ、ウラジロ、ユズリハをはじめ、神の膳、オズッキ、神棚、ダルマなどが売られます。オズッキとは供物を盛る木製の小皿のことで、お正月には神の膳にオズッキをのせ神々へ供えます。かつては子どもの下駄や足袋などの日用品も歳の市で買い揃えました。羽子板や独楽などの玩具も買ってもらったので、子どもも大人について歳の市へ出かけるのが楽しみでした。

歳の市の歴史は古く、天保年間(1830~1844)刊の『新編相模国風土記稿』平塚新宿の条に、「毎年12月25日八幡社大門より、海道中に市立てり。歳首(註:年頭のこと)平塚八幡宮の歳の市 ダルマを売る店



麻生不動のダルマ市

と)に用いる諸物を鬻ぐ(註:ひさぐ。売る、商うこと)を以て、飴市(かざりいち)と称す」と記されています。

現在は12月21日の中原市を皮切りに、23日に須賀三島神社、25日に平塚八幡宮、26日に田村八坂神社、29日に本宿と金目、30日の大久保公園に歳の市が立ちます。

歳の市は別名ダルマ市といわれるように、たくさんのダルマが売られます。家内安全や商売繁盛を祈願してダルマに片眼を入れて神棚に上げ、無事に一年を過ごせたら両眼を入れて道祖神に納め、小正月のセートバライでお焚き上げをします。だから毎年大勢の方がダルマを求めに歳の市を訪れます。歳の市やダルマ市は県下の各地に立ちます。規模の大きなダルマ市として小田原市の飯泉観音(12月17,18日)と川崎市麻生区の麻生不動院(1月28日)の市が知られています。こうした市で販売されるダルマのほぼすべてが平塚産であることをご存知でしたか?平塚市は現在、県内唯一の縁起ダルマの産地なのです。平塚のダルマ造りは明治32年頃に四之宮で発祥し、現在も3軒のだるま店が年間数万個の張子ダルマを生産しています。平塚市博物館では、ダルマのシーズンに合わせ、冬期特別展「開運!招福!相州だるま」(会期:12月4日~2月6日)を開催します。ぜひご覧ください。

(博物館学芸担当)



平塚八幡宮の歳の市 お飾りを売る店

平塚ゆかりの書家、田中真洲「田中真洲翁記念碑」

この記念碑は、日本の書道界に大きな足跡を残された故田中真洲氏の偉業を讃え、氏のゆかりの地である代官町に氏の長女、次女が記念碑を建立し、市に寄贈したものです。

《田中真洲》

田中真洲氏は1892年、中郡須賀村(現在の千石河岸)の材木商を営む田中家の次男として生まれました。漢文学を春日井柳堂(りゅうどう)に学び、書道は齋藤芳洲(ほうしゅう)に師事、更に日下部鳴鶴(めいかく)、近藤雪竹(せっちく)氏等の諸先生につきました。

また、篆刻は高畑翠石(すいせき)に師事しました。

結婚後、東京に新居を構えましたが、53歳(1945年)の時に東京大空襲により自宅を焼失したことから、平塚市に転居しました。

作品は宮内庁や神社など公的な場に多く奉納されており、市内の三嶋神社や前鳥神社にも揮毫奉納されています。

田中真洲氏は、書家として文化の発展へ寄与するとともに、さらに平塚市の教育、市政にも貢献されました。



平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金にご寄附をいただいた方(H22.7月から9月まで)

■湘南新舞踊協会(9.7)(敬称略)

発行 平塚市文化・交流課 〒254-0045 平塚市見附町15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

2010年(平成22年)11月15日発行 E-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm